

①重点目標	a 確かな学力定着のための授業の充実 【学習】【各教科】	b 自主的な学習態度の育成 【学習】【各学年】
②重点課題	1 授業力向上への組織的取り組みと成績不振者対策の徹底	2 自主的な学習計画の作成と自学自習時間の確保
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期には校内を、2学期には校内・校外を対象にし、授業公開週間を設置しているが、校務や持ち時間の関係から授業見学に行く回数に限られてしまっている。</li> <li>各学年における成績上位層と下位層との学力差が大きくなっており、かつ下位層の人数が増加傾向にある。また学習意欲が高いとはいえない生徒も散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1, 2学年においては、毎日規則正しく自学自習するという習慣が確立されていない生徒が見受けられる。</li> <li>予習をして授業に臨み、授業後に復習するという学習習慣が十分に確立されていない。</li> <li>受身的な学習態度で、自律的に学習できない生徒が増加傾向にある。</li> </ul>
④達成目標 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科内及び教科を越えてお互いに授業見学を行い、自身の授業改善に生かす。 B</li> <li>生徒の学習意欲を高める教材の開発や授業方法について研究し、共有を図る。 B</li> <li>成績不振者に対し、教科と学年との連携を図り早期かつ継続的に指導し、学年末の成績不振者ゼロを目指す。 B</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律的な学習を行える生徒を育成する「入り口指導」の充実。 B</li> <li>1, 2学年で毎日必ず自学自習する生徒の割合が90%以上。 B</li> <li>自学自習時間：平日「学年+2」時間、休日「学年+5」時間の達成率80%以上。 C</li> </ul>
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期には校内で、2学期には校内に加え保護者や地域に公開しての授業見学・研究会を実施する。</li> <li>SSH事業の一環として、論理的・創造的・独創的思考力の育成を図るための研修を受けたり、授業研究に取り組む。</li> <li>授業方法の研究としてアクティブ・ラーニングの研修受講や、授業研究に取り組む。</li> <li>学力差に対応した授業の展開方法や指導法について、教科内や教科間で協議研究を重ね、実践的に取り組む。</li> <li>定期試験後には、成績不振者についての情報を学年と共有して生徒一人一人の状況を把握し、教科担任による面談や個別指導を行うなど早期に対応する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律的な学習を行える生徒の育成のため、1年生の「入り口指導」の充実、2, 3年生の学年集会等の年度当初に行う「入り口指導」を充実させる。</li> <li>予習-授業-復習-質問の学習サイクルの確立や、毎日の自学自習開始時刻とその場所の確定等、学習のしかたを面談等できめ細かく指導する。</li> <li>学習に対する内発的動機付けを高めるため、SSH事業とも連携し生徒の知的好奇心を刺激する機会を増やす。</li> <li>土曜講座について、学年担任団が教科担任と連携し、各成績層の生徒に対応できる講座を設ける。</li> </ul>
⑥評価 <small>*栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ( )は5わからないの割合を表す &lt; &gt;…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が1, 2学期とも授業見学をしたが、自身の授業改善までできなかったと考える教科が半数あった。</li> <li>授業方法の研究、共有を図れた教科もあったが、多くの教科で共有まで図れていなかった。</li> <li>成績不振者に対して、早期かつ継続的に指導したが学年との連携が弱かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の入り口指導は充実して行えたが、2, 3年生に対してはやや不十分であった。</li> <li>栃高評価①(学習の取り組みへの指導・アドバイス) 生徒89%(2)&lt;89(2)&gt; 保護者96%(3)&lt;99(1)&gt;と極めて高く、その結果、毎日自学自習する生徒の割合は56%(昨年50%)と増加している。</li> <li>学習時間の達成率は平日1年生26%, 2年生1%, 3年生15%で、休日は1年生13%, 2年生1%, 3年生9%であった。</li> </ul>
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>下位層への指導は大切だが、上位を伸ばす工夫を願いたい。</li> <li>成績不振者への個別指導を入学当初から強化願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生の数値が極端に下がっているのが課題。</li> <li>目的意識をいかに持たせるかが大切である。</li> </ul>
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の授業改善の取り組みと、改善した授業方法の共有化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2, 3年生の入り口指導の充実と、毎日規則的に学習する習慣の確立が必要である。</li> </ul>

①重点目標	c 進路希望実現のための効果的な進路指導の実現		【進路】【各教科】【各学年】	
②重点課題	3 三年間を見通した進路指導計画の実践とノウハウの継承		4 模試データ分析の効果的な活用と適切な進路情報の提供	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画を進路指導部で作成し、進路講演会や学問探究講義、卒業生との懇談会等を実施し、キャリア教育を推進するとともに、学習意欲の向上を目指している。</li> <li>時機をとらえた効果的な生徒個人面談を実施するために、三年間を見通した面談の内容について共通理解を図る必要がある。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試データによる校内ランキングの見直しや、進路指導委員会に向けての検討をさらに充実させることにより、進路指導部と担任間、および担任と生徒間の進路に関する情報のやりとりをさらに充実させる必要がある。</li> <li>進路学習室や大掲示板の環境整備や、進路委員の活動を通して、1、2年生に対する情報提供もさらに充実させる必要がある。</li> </ul>	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜講座（全員講座・希望講座）の内容の充実を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内模試による校内ランキングの見直し、外部模試の分析、適切な情報提供を通して、進路指導委員会を充実させる。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>LHRや総合学習、講演会等の進路関係行事の計画、実践により生徒の進路意識の高揚とその維持を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1、2年次の進路検討会を実施し、志望校等についての情報の共有を図り、低学年からの進路情報の提供を充実させる。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導ノウハウの継承や、生徒個人面談の内容充実を図るために、教職員用の進路シラバスを活用していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>「大学入試改革」に関する正確な情報収集につとめ、全職員で情報を共有する。</li> </ul>	A
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上のために、土曜講座を、実態とニーズに合わせて連続性をもって計画・実施し充実したものにする。</li> <li>蓄積された電子データ（各学年のLHRの資料や学年独自の進路関係行事の実施記録、及び長期休業前指導などの使用資料）を活用し、三年間を見通したLHR及び進路学習を計画・実践する。</li> <li>1年次からの進路学習を充実させるため、その出発点として、多くの教員との面談を通して自己理解を深め、「進路講演会」、「学問探究講義」等を通して学問分野の選択へと繋げていく。</li> <li>各学年毎にその時期の面談の意義や進路指導委員会等の進路行事の目的を明文化することにより職員間の共通理解を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内判定と校内ランキングの見直しを丁寧に行うとともに、検討会を充実させ、収集した情報を生徒の進路希望の実現、教職員の研修に生かしていく。</li> <li>個別大学模試についても追跡調査をはじめとした分析を行い、その結果をもとに生徒の進路希望実現に向けた指導を行う。</li> <li>クラス担任からの入試制度等の進路情報の伝達や、進路学習室・大掲示板を活用した恒常的な情報発信、各クラス進路委員の活動を通しての進路意識の高揚など、情報提供環境を充実させる。</li> <li>「大学入試改革」に関して、正確な情報収集につとめ、全職員で情報を共有出来るようにする。また、カリキュラム編成に際しても適切に情報提供を行う。</li> </ul>	
⑥評価 <small>*栃高評価満足度は1「1そう思う+2「大体そう思う」の割合を表し、( )は「5わからない」の割合を表す &lt; &gt;…昨年度データ</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価②（土曜講座の充実） 生徒76% (5) &lt;72 (4)&gt; 保護者65% (25) &lt;75 (15)&gt; 使用教材の工夫等により生徒の反応は年々良くなってきている。保護者の「5わからない」の割合に今後注視していく。</li> <li>栃高評価④（3年間を見通した進路指導） 生徒84% (4) &lt;86 (3)&gt; 保護者94% (4) &lt;96 (0)&gt; 三年間を見通すことにより、面談週間以外の場でも生徒に対する声かけや小面談が効果的に行われていることが窺える。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内ランキングの見直し、進路指導委員会の事前検討会等を通して、担任団への情報提供や支援を適切に行うことができた。</li> <li>栃高評価⑥（進路に関する情報の提供） 生徒87% (2) &lt;85 (3)&gt; 保護者90% (4) &lt;93 (1)&gt; 特に生徒の「1「1そう思う」の割合が年々上昇してきており、情報の提供は充実してきている。</li> <li>「大学入試改革」に関する現職教育を実施し、全職員で情報の共有をすることができた。</li> </ul>	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの教員による面談は有効。教員間の共通理解が大切。</li> <li>土曜講座の充実に対する生徒の評価が年々良くなっている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高独自の進路指導システムを継続していくことが重要である。</li> <li>大学入試改革に関する情報提供を的確に実施願いたい。</li> </ul>	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜講座のテーマの工夫により学習意欲の向上を図る。</li> <li>三年間を見通した上で、生徒の進路意識を高めるための職員間の「目線合わせ」を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導委員会に向けた準備や検討会等を通して、職員間で共有する情報の質を高める。</li> <li>「大学入試改革」に関する正確な情報収集と対応の準備を行う。</li> </ul>	

①重点目標	d 主体的な学習活動による健全な教養の醸成 【図書館】		e 健康的な生活のための生活習慣の確立 【保健厚生】【生徒指導】	
②重点課題	5 利用の質的な向上をめざした支援体制の整備		6 生涯を通じて心身共に健康な生活を送るための健康管理能力の育成	
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度に年間貸し出し数5,000冊越えの記録を達成。100冊以上借りている生徒も複数。平成27年度は3,500冊。</li> <li>ビブリオバトル入賞等、図書委員会中心に読書推進活動も盛ん。</li> <li>調べ物の情報源が書物からネットへと移行しつつあるなか、やや知的な娯楽読み物への要望が多いが、利用者の知的水準向上を図れるような働きかけを工夫している。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康的な生活習慣に関する様々な情報について、生徒が十分理解できていなかったり、誤った情報を鵜呑みにして意思決定・行動選択している場合がある。</li> <li>精神的な問題を抱えた生徒の欠席が長期化する傾向にある。</li> <li>安易な遅刻や欠席の防止に向けて、生徒への啓蒙や保護者への呼びかけをしている。</li> </ul>	
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	・「文献引用シート」の定着及び「小論文模試」への応用。	B	・週3日以上運動を実践する生徒80%。	B
	・「読書アンケート」による実態把握及び運営方針・サービス内容の適正化。	B	・保健委員会を活用した「保健だより」の発行と健康的な生活習慣の理解。	B
	・広報活動の充実による図書館利用促進と質の向上。	B	・50%のクラスが出席率99.5%以上になることを目指す。	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>「文献引用シート」の作成と活用をひきつづき促進する。</li> <li>新たに「読書アンケート」を実施。利用者の読書の実態や目的を踏まえ理想的かつ現実的な図書館サービスを目指す。</li> <li>教科指導とのタイアップ、「としょあんない」等の印刷物、イベント、HP、展示方法の工夫等を組み合わせ、利用者の読書の質の向上を図る。</li> <li>以上の取組を通し、年間貸し出し数4,000冊以上を維持。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>健康的な生活習慣に関して、教科での指導とともに「保健だより」を活用して正確な情報を提供し、運動・栄養・休養について正しい意志決定・行動選択の実践ができるよう指導する。</li> <li>不登校傾向生徒の迅速な把握のため、担任及び学年と教育相談係の連携を強化し、早期に対応する。</li> <li>スクールカウンセラーと連携し、精神的な問題を抱えた生徒やその保護者を支援する。</li> </ul>	
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体系 そう思うの割合を表し、 ( )は5わからない の割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価⑦（読書活動の活発化） 生徒32% (6) &lt;45 (6)&gt; 保護者44% (25) &lt;48 (18)&gt; 大幅な県費の削減があったが、同窓会の緊急支援や生徒たちの財政難への理解により助けられた。大幅な予算減の影響で、上記の評価が下がったのは当然といえる。</li> <li>「文献引用シート」は形骸化させないようさらに改良必要。</li> <li>「読書アンケート」は、調査時期を前倒しすべき。</li> <li>「広報活動」、「利用促進」には工夫して当たっており、成果が見られた。一方、質に関してはじわじわと向上中。</li> <li>年間貸し出し数4,000冊の目標は達成困難そうに思われる。ライトノベルを購入すれば、数は簡単に増えるのだが、蔵書の質を落とさないためにあえて見合わせており、今後もこの方針を維持することが図書館を愛することにつながる。</li> <li>ビブリオバトル県優勝等、図書委員が活躍、勇名を轟かせた。</li> <li>中断していた読書感想文コンクールへの応募を復活できた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価⑧（健康的な生活を送るための指導） 生徒57% (5) &lt;59 (5)&gt; 保護者83% (9) &lt;83 (7)&gt;</li> <li>運動実施状況 週3日以上1年66% (昨年比-2%)、2年57% (昨年比-8%)、3年40% (昨年比-8%)、3学年の平均は55% (昨年比-9%)で、全学年とも実施率が低下するとともに全国平均値を下回った。</li> <li>保健委員を活用し、それぞれの行事や気候の変化に応じた「保健だより」を継続的に刊行することができた。</li> <li>今年度出席率99.5%を達成したクラス21.1% (38/180) (28.4~29.2月) ※ 分母:18クラス×10回調査実施=180</li> <li>昨年度出席率99.5%を達成したクラス33.3% (66/198) (年間) ※ 分母:18クラス×11回調査実施=198</li> </ul>	
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算の回復がなかった場合の対応を早めに検討すべき。</li> <li>生徒には本を選んで読むよりたくさん読むことを勧めたい。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>安易な遅刻は不登校傾向につながる。「安易」かどうかを見極めたい。</li> <li>学力で悩む生徒も多いと思う。不登校生徒への支援の継続を願いたい。</li> </ul>	
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算獲得に向け県に働きかけを続けていく。回復しなかった場合の対応についても考えておく必要がある。</li> <li>活動計画を全般的に前倒しする。図書館は11~12月の繁忙期にイベントが集中する傾向があるため。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>運動部の活動を活発化できるよう特活部とも連携し、運動の習慣化について理解させる。</li> <li>「保健だより」の内容をより多くの生徒に活用させるよう指導する。ホームページ等への掲載も継続する。</li> </ul>	

①重点目標	f 特別活動の充実と生徒の積極的な参加への指導		【特活】	
②重点課題	7 全生徒で計画的に取り組む充実した学校祭の企画と実施	8 学校行事、部活動、体験活動に全力的に取り組むための環境整備		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が組織する学校祭実行委員会と各クラスの文化委員が中心になり、全員参加による学校祭を企画している。昨年は過去最高の来場者数があった。これは実行委員と各クラスの文化委員の連携がうまく図られ、計画的に準備した結果であると推察される。またHPを活用し学校祭ピーアールを地域社会に向けて発信してきたことも奏功したと思われる。</li> <li>参加団体の企画の文化性や娯楽的な内容も好評で年々充実しているが、全体のバランスや食品販売のあり方、あるいは校内公開の進め方など検討の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総じて部活動加入率も高く、移動教室、外国人との交歓会、ボストン海外研修、県庁堀清掃ボランティア（昨年は大雨により中止）、生徒会リーダー研修会といった多くの行事や体験活動に積極的である。</li> <li>文武両道を掲げ多くの生徒が学校生活を送っているが、進路実現のための学習時間の確保と、部活動や生徒会活動等の様々な活動を両立していく難しさもある。</li> </ul>		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入場者目標延べ4,000人(雨天時3,000人)。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通しての部活動加入率80%維持。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス企画における質の向上に向けた実行委員会と文化委員の連携を強化する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動教室（スキー・スノーボード）80名、ボストン海外研修30名の参加目標人数の達成。</li> </ul>	A
	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内公開の完全実施の達成。</li> </ul>	C		
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒実行委員会を定例化し生徒会係職員との連携を強化する。</li> <li>クラス企画が準備段階から計画的に取り組めるよう文化委員と実行委員との連携を密にするとともに、文化委員と担任との関わりを充実させ校内公開、一般公開を成功させる。</li> <li>生徒実行委員会だけでなく、各種専門委員会の生徒会組織全体を機能させ、学校全体を活性化させる。</li> <li>本校HPを活用し、学校祭プログラムを事前告知し、情報発信に努める。</li> <li>学校全体の一体感を醸成するとともに生徒の安全・健康を勘案し、後夜祭企画は精選を旨とし、全学年参加型企画を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動と学業の両立支援の通知を配付し、生徒や保護者に周知するとともに、部活動優先日（金曜日）を徹底する。</li> <li>年度初めの部活動加入率の調査と、年度末の時点での退部状況の調査を実施する。</li> <li>移動教室やボストン海外研修においては、その魅力を十分に事前告知することにより、目標人数を達成する。</li> <li>体験活動全般において、その意義を各クラスにおいて指導し、事前指導・研修の機会を設け、参加生徒がそれぞれ課題意識を明確にして当日に臨めるようにする。</li> <li>当該委員会において、行事運営の補助ができるよう指導し、委員会活動の活性化を図る。</li> </ul>		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、( )は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価⑩（学校祭の充実） 生徒93%(2)〈92(2)〉 保護者100%(0)〈98(0)〉 入場者2,624名 昨年度3,701名（過去最多を更新）</li> <li>雨天の影響などもあってか、昨年の来場者数には及ばなかったが、例年同様生徒、保護者の満足度も高く充実した学校祭であった。</li> <li>クラス企画の質の向上については改善の余地がある。</li> <li>台風による臨時休校や始業式と学校祭当日との間隔の狭さなどで準備が遅くなり、校内公開の完全実施には至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率4月末81%（昨年度86%）11月末80%（昨年度83%）今年度4月当初から80%を超える加入率で、昨年比では5%低下したが、11月末でも80%であり、高率を維持していると言える。</li> <li>ボストン海外研修参加者28名（昨年30名）、移動教室（スキースノーボード）参加者75名（昨年63名）いずれもほぼ目標数を達成した。</li> <li>昨年度大雨被害のため中止となった体験活動（県庁堀清掃）は、再開することができた。</li> </ul>		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施時期・方法は毎年検討すべき。入場者数は多く大変良い。</li> <li>保護者の100%が学校祭の充実を評価。生徒の熱意の結果だ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動加入率、移動教室参加率は満足。事前指導が良いと感じる。</li> <li>ボランティア活動は生徒にとって有効である。</li> </ul>		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭の準備時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>退部や転部をした生徒の実態を把握する。</li> </ul>		

①重点目標	g 規範意識と自主性の向上 <span style="float: right;">【生徒指導】</span>			
②重点課題	9 社会生活における法の遵守とマナーの向上	10 校内生活における規範意識の向上		
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科やホームルーム、学校行事等において、生徒自身が安全な交通社会の主体となる指導を実践している。</li> <li>学校生活において生徒心得等諸規定を遵守する態度を育成し、そのことが社会のルールを守る態度の育成につながることを理解させ生徒指導を実践している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりに存在感や達成感を与えると共に思いやりの心や規範意識を高め豊かな人間性や社会性を育てる指導を実践している。</li> <li>規範意識の向上や生徒心得遵守に関する指導については全職員の共通理解に基づき、その時、その場での指導を実践している。</li> </ul>		
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故発生ゼロを目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ発生ゼロを目指す。</li> </ul>	B
	<ul style="list-style-type: none"> <li>登下校時の苦情昨年比50%減を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯電話規程違反生徒昨年比50%減を目指す。</li> </ul>	C
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故防止については、生徒自身が、被害者にも加害者にもならないことを目指し、保健の授業や交通安全講話、HRでの交通事故事例紹介による注意喚起など年間を通して指導する。</li> <li>教職員、交通委員やPTAが街頭指導等を含む交通指導を行い、交通マナーの向上と事故防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒同士がお互いの良さを認め好ましい人間関係を築き、いじめが起こりにくい集団づくりの指導をする。</li> <li>定期的に各学年主任・部長間で不応適傾向の生徒について情報交換を行い、迅速な対応に向けて協議する。</li> <li>「生活アンケート」や「Q Uテスト」の実施とその結果の効果的な活用により、いじめや学級集団の状況把握に努める。</li> <li>携帯電話使用規程をはじめとする校内規則の遵守については適切な指導を行うと共に内面的な自覚を促し、自主的にマナー向上につとめるよう指導する。</li> </ul>		
⑥評価 *栃高評価満足度 % は 1(そう思う)+2(大体そう思う)の割合を表し、( )は 5(わからない)の割合を表す < > ……昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価⑫ (交通ルールの遵守やマナーの向上) 生徒75% (3) (82 (2)) 保護者90% (5) (87 (8))</li> <li>交通事故発生4件。昨年比±0件 (28.4~29.2月) 交通委員の活動やPTAの積極的な協力が目立った。</li> <li>交通関係苦情、通学マナー苦情3件。昨年比-1件 (28.4~29.2月) 職員、生徒による定期的な街頭指導を予定通り実施できた。年度当初や夏季休業後に多いので次年度は特に留意したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>栃高評価⑬ (生徒の規範意識を高めるための指導) 生徒77% (3) (81 (3)) 保護者93% (4) (81 (6))</li> <li>栃高評価⑭ (携帯電話のルールの遵守と情報モラルの向上) 生徒79% (2) (80 (3)) 保護者85% (5) (91 (1))</li> <li>いじめ発生2件 昨年比+1件 (28.4~29.2月) 本校のいじめ防止基本方針に基づく行動計画により、いじめの正確な認知と組織的な対応で早期に解決することができた。</li> <li>携帯電話規程違反生徒22名指導。昨年比+4名 (28.4~29.2月) 携帯電話等への依存傾向が強い生徒が増えている。また、SNSへの悪意ある書き込みによる指導が絶えない。</li> </ul>		
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルールや生徒心得遵守が社会のルールを守る態度を養う。</li> <li>交通事故・苦情共に減少していて、良い傾向である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な個性の強い生徒を認める雰囲気があれば良い。</li> <li>規範意識は清掃指導の徹底から入るのも一つの手である。</li> </ul>		
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通ルール遵守、マナー向上を徹底させ事故防止に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットトラブルの未然防止、早期指導について、生徒指導の場面だけでなく、各教科、特別活動など学校全体で指導に努める。</li> </ul>		

①重点目標	h 環境教育への積極的な取り組み <b>【保健厚生】</b>	i <b>広報活動の充実</b> <b>【渉外】【教務】</b>
②重点課題	1 1 ゴミ・資源問題への意識の向上と学校生活環境の改善	1 2 家庭・中学校・地域社会への積極的な広報活動の展開
③現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室周辺（特にロッカー上）の整頓がクラスによって不十分である。</li> <li>・ゴミと資源の分別回収は概ね良好であるが、学校教育活動からの可燃ゴミ量を減少したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」を年2回発行。</li> <li>・PTA総会、PTA支部会、学年研修会において進路指導・学習指導・生徒指導等の取り組みや現状についての情報の提供。</li> <li>・PTA評議員会を年4回開催。</li> <li>・「校報」を年4回発行。</li> <li>・一日体験学習募集ポスターの送付。</li> <li>・中学校訪問用持参資料の作成と中学校訪問。</li> <li>・ホームページの定期的な更新により月間アクセス数が約37,000件。</li> </ul>
④達成目標 達成率 A：達成できた。 B：概ね達成できた。 C：達成できなかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リサイクル活動を促進し、可燃ゴミの量を月平均900kg未満を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有を深めるための「PTAだより」の内容の充実。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロッカー上など教室周辺の清掃を徹底し、定期的に行う環境チェックでの指摘ゼロを目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒や保護者への説明会開催を目的とした中学校訪問校数30校。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの月間アクセス数38,000件。</li> </ul>
⑤具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ分別を徹底させるため、分別等の表示や掲示を工夫し可燃ゴミの量を減少させる。</li> <li>・環境美化委員会を中心に、定期的に教室周辺の学習環境をチェックする。生徒指導部とも連携してロッカー上の私物散乱等の指摘をゼロにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」に会員の声や校内の様子をより多く掲載できるよう検討する。</li> <li>・積極的な中学校訪問活動を実践する。</li> <li>・中学校訪問の時期・対象・地域・内容の再検討を行う。</li> <li>・ホームページ上での一日体験学習への案内と実施内容をさらに充実させる。</li> <li>・定期的なホームページ更新講習会を実施する。</li> </ul>
⑥評価  *栃高評価満足度 % は1そう思う+2大体そう思うの割合を表し、 ( )は5わからないの割合を表す < >…昨年度データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃高評価⑮ (環境美化とゴミの減量化、リサイクル運動の推進) 生徒58%(6) &lt;60(6)&gt; 保護者54%(29) &lt;52(31)&gt;</li> <li>・定例の教室環境チェックを実施した。ロッカー上の私物については指摘がなかったが、場所によって清掃が十分されていない箇所があった。</li> <li>・外来者が来校する際の清掃状況は改善し、苦情や指摘されることはなかった。</li> <li>・可燃ゴミ合計量10,169kg(月平均924kg/月・28.4~29.2月)であった。合計量は昨年と比較すると若干増加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」に会員の寄稿や学校の様子を伝える記事と写真の掲載を心掛けた。</li> <li>・中学校訪問は、昨年度と同様に栃木市や小山市等の近隣の中学校の他に新たに宇都宮市・足利市・上三川町・県外中学校を加えた82校に打診し、15校に訪問することができた。今年度は対象生徒を2学年まで拡大するなどの工夫をした。参加した中学生や保護者からの反応は良好で訪問した生徒・保護者への十分なPRとなった。</li> <li>・ホームページのアクセス数は、28.4~29.2月の平均で45,000件/月。昨年度の37,500件/月から大幅に増加した。また、上半期(~8/31)1,600件/日→下半期(~2/26)1,450件/日で高水準を維持した。地域や保護者への情報発信として重要な役割を果たしていると言える。</li> </ul>
⑦学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境チェック・ゴミ減量化・リサイクル運動の継続を願う。</li> <li>・クラスによって清掃状況の差があると思うので指導願いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校へのアンケートでどの情報が有効かを把握するのも良い。</li> <li>・ホームページのアクセス数増加は情報を得たいという要求の現れ。</li> </ul>
⑧次年度への課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化委員会によるリサイクル活動を継続し、ゴミの減量を図る。</li> <li>・教室や廊下、ロッカー上の整理整頓や清掃については、HR担任や清掃監督者と迅速に連携して適切に指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「PTAだより」の内容充実を継続する。</li> <li>・中学校訪問は、訪問する地域や対象学年、形態等の再検討に加えて、希望のない中学校への対応を検討する必要がある。</li> <li>・ホームページの活用を全職員が認識し、学校行事や大会等の結果の書き込みの習慣化を図り、質量併せたさらなる充実に努める。</li> </ul>